

第 3 学年国語科学習指導案

児童 3年2組 男14名 女13名 計27名
 指導者 千葉知行

相手の考えを受け入れ、登場人物の人柄について交流し合う学習活動の工夫

1 単元名 物語を読んで、しょうかいしよう (学習材名「モチモチの木」(光村3年下)他)

2 単元について

(1) 児童の実態

児童はこれまでに、「三年とうげ」において場面の様子を比べながら登場人物の気持ちの変化を読む学習をしてきた。また、「ちいちゃんのかげおくり」では、行動を表す言葉や会話文を手がかりに登場人物の気持ちを読む学習をしてきた。これらの学習を通して、登場人物の気持ちについて想像したり自分の考えをまとめたりすることができるようになってきている。しかし、登場人物の行動を表す言葉や会話文から、登場人物の性格や人物像を考えて読み取っていく力は十分ではない。

「読むこと」の学習では、読み取ったことや感想を対話で交流してきた。この中で、相手の話に興味を持って聞こうとしたり、更に相手の考えを受け入れて聞こうとしたりするようになってきている。

これらのことから、登場人物の行動を表す言葉や会話文に即しながら、登場人物の人物像を読む力をつけていくこと、分かり合うために聞き合おうとする態度を身につけていくことが大切であると考ええる。

(2) 主たる指導事項と学習材

本単元の主たる指導事項は、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」である。本単元では、「登場人物の行動を表す言葉や会話文に即しながら、登場人物の人物像を読むこと」「登場人物の人柄に対する、互いの感じ方について違いのあることに気付くこと」が指導の中心である。

このような力を育てるために、学習材として斎藤隆介の「モチモチの木」「猫山」「春の雲」「半日村」「火の鳥」を用いる。斎藤隆介のこの5作品の根底に一貫して流れているのは、人間の優しさや、献身の美しさである。児童は、登場人物に同化したり憧れをもったりして読み進めていくであろう。

この5作品は、登場人物の行動や会話が捉えやすく、行動や会話を手がかりに登場人物の気持ちを想像して読み取る力を高めていくことができると考える。更に、読み取ったことから、登場人物の人柄に迫ることができるであろう。また、一人一人が感じた登場人物の人柄について自分の感じたことと比べながら聞き合うことにより、感じ方について違いのあることにも気付き、読みを広げることになると思われる。

この学習材を通して、児童は、「登場人物の人物像を読むこと」「互いの感じ方について違いのあることに気付くこと」の力を高めていくことができるであろう。

(3) 指導に当たって

指導に当たっては、次のように進めたい。

単元のみとおす段階では、「好きな登場人物」という視点で、これまでに読んだ物語の感想を話し合い、登場人物に興味をもたせたい。そして、登場人物事典を作る活動を通して、登場人物の人柄を読むという読書の仕方を学び、読書生活を豊かなものにするという学習のねらいと見通しをもたせたい。

ふかめる段階では、「モチモチの木」の登場人物カード作りと人柄についての交流を行う。初めに、「豆太」の行動や会話から、「豆太」の年齢や家族・住まい・気持ちについて読み取らせる。その際、人柄を表す言葉について考えさせ、表現するための語句を増やしていきたい。次に、その読み取りを基に、登場人物カードにまとめさせる。最後に、人柄について交流し、自分の感じたことと比べながら聞き合わせることで、自分の感じ方に確信を持たせたり、互いの感じ方に違いのあることに気付かせたりしたい。そして、他の登場人物カード作りへの意欲を高めたい。

まとめる段階では、自分が選んだ他の斎藤隆介の登場人物カード作りを行い、そのカードをまとめて登場人物事典を作る。できるだけ、自力で登場人物カードを作らせることにより、登場人物の人柄を読む力を高めたい。また、登場人物の人柄について交流する中で、登場人物への新たな発見や思いを実感させ、今後の読書生活に結びつくようにさせたい。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・登場人物に着目して、斎藤隆介の作品を読もうとしている。
- ・登場人物の人柄について、相手の考えを受け入れ聞き合おうとしている。

(2) 読むこと

- ・登場人物の行動や会話から、登場人物の気持ちや人柄をとらえて読むことができる。
- ・登場人物の人柄について、互いの感じ方に違いのあることに気付くことができる。

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・人柄を表す言葉について考え、表現するための語句を増やすことができる。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
①登場人物に着目して、斎藤隆介の作品を読み、登場人物事典を作ろうとしている。 ②登場人物の人柄について、相手の考えに共感したり、詳しく知りたいことを質問したりしようとしている。	①登場人物の行動や会話から、登場人物の気持ちや人柄を読んでいる。 ②登場人物の人柄について、互いの感じ方に違いのあることに気付いている。	①人柄を表す言葉について考え、表現するための語句を増やしている。

5 学習指導計画（13時間扱い）

段階	学習課題	学習活動と時間	評価規準（方法）
みとおす	○「モチモチの木」を読んで、学習の計画を立てよう。	・これまでに読んだ物語の「好きな登場人物」について感想を話し合う。(1) ・登場人物を中心に読み取り、登場人物事典を作る学習計画を立てる。(1) ・5作品の読み聞かせを聞く。(1)	アー①「好きな登場人物」について感想を話し合い、学習の見通しをもっている。(ノート、発言)
ふかめる	○「豆太」について読み取ろう。 ○「豆太」の人柄について聞き合おう。	・「豆太」や「じさま」の行動や会話から、「豆太」について読み取る。気持ち 年齢 家族 住まい・・・(5) ・「豆太」の人柄を登場人物カードにまとめ、交流する。(1) 2組本時	アー①豆太に着目して、登場人物事典を作ろうとしている。(ワークシート・カード) イー①豆太の行動や会話から豆太の気持ちや人柄をまとめている。(ワークシート・カード) ウー①人柄を表す言葉について考え、表現するための語句を増やしている。(ワークシート) イー②豆太の人柄について、互いの感じ方に違いのあることに気付いている。(対話・ノート) アー②豆太の人柄について、相手の考えに共感したり、詳しく知りたいことを質問したりしようとしている。(対話・ノート)
まとめる	○斎藤隆介の作品の登場人物について読み取ろう。 ○登場人物の人柄について聞き合おう。	・斎藤隆介の作品の登場人物について行動や会話から、人柄について読み取る。(2) ・斎藤隆介の作品の登場人物の人柄を登場人物カードにまとめ、交流する。(2) 1組本時	アー①登場人物に着目して、登場人物事典を作ろうとしている。(ワークシート・カード) イー①登場人物の行動や会話から登場人物の気持ちや人柄をまとめている。(ワークシート・カード) ウー①人柄を表す言葉について考え、表現するための語句を増やしている。(ワークシート) イー②登場人物の人柄について、互いの感じ方に違いのあることに気付いている。(対話・ノート) アー②登場人物の人柄について、相手の考えに共感したり、詳しく知りたいことを質問したりしようとしている。(対話・ノート)

【関連する前の単元】
「ちいちゃんのかげおくり」
○読み取った内容について自分の考えをまとめる。

【関連する対話の指導】
○自分の経験や考えと比べて聞き分ける。
○話の筋に沿って聞き返す。

【生かす単元】「名前をつけよう」
○互いの考えの相違点や共通点を考えながら、合意点を見つけようとして進んで話し合う。

6 本時の指導

(1) ねらい

- ・登場人物の人柄について,相手の考えを受け入れ聞き合おうとしている。 [対話の情意的要素]
- ・登場人物の行動や会話から,登場人物の人柄をまとめることができる。 [「読むこと」の能力]
- ・登場人物の人柄について,互いの感じ方に違いのあることに気付くことができる。 [「読むこと」の能力]

(2) 展開

段階	学習活動	時間	◇学習内容	教師の関わり ☆評価(方法)
みとおす	1 本時の学習課題を確認する。 「豆太」の人がらについて聞き合おう。	3	◇学習課題を確認すること。 ・自分の感じ方と相手の感じ方を比べて聞くこと。	・学習課題について確認をし,学習の目的を持たせる。
ふかめる	2 場面の様子を振り返り,豆太についての感想を聞き合う。	15	◇場面の様子を振り返り,豆太について感想を聞き合うこと。	・挿絵を使用しながら場面の様子を振り返る。 ・場面の様子に豆太についての感想を関係付けて話すようにさせる。
	3 豆太の人柄をまとめる。	7	◇豆太の人柄とそう考えた理由をまとめること。 ・最も豆太らしさを感じる所から人柄を書きまとめること。	☆豆太らしいと思う所から,その人柄を書きまとめている。 (登場人物カード) 【努力を要する児童への手立て】 豆太の行動の中で一番心に残った所から人柄について考えるよう促す。
	4 豆太の人柄について聞き合う。 (1) 対話の進め方を知る。 (2) 対話を行う。 (3) 全体で聞き合う。	8 6	・対話の進め方を知ること。 ◇互いの感じ方に違いのあることに気付くこと。 A: 豆太の人柄は〇〇だと思いました。理由は△△だからです。 B: Aさんは,〇〇だと思ったのですね。理由は,△△だからなのですね。 B: △△の時に豆太は,どんな気持ちだったと思いますか。 A: △△の時は,□□な気持ちだったと思いました。 B: Aさんの感じた人柄を聞いて・・・と思いました。 B: わたしはAさんとちがっていて,豆太の人柄は〇〇だと思いました。理由は,△△だからです。 : A: まとめます。対話をして・・・と思いました。 ・自分の感じ方と相手の感じ方を比べて聞くこと。	☆豆太の人柄について,互いの感じ方に違いのあることに気付いている。 (対話・ノート) 【努力を要する児童への手立て】 人柄を表す言葉に気をつけて聞くように促す。 ☆登場人物の人柄について相手の考えに共感したり,詳しく知りたいことを質問したりしようとしている。 (対話・ノート) 【努力を要する児童への手立て】 登場人物の人柄とそう考えた理由に表れる会話や行動を手がかりに対話をするように促す。
まとめ	5 学習の振り返りをする。 6 次時の学習を知る。	6	◇豆太の人柄について全体で聞き合った感想をまとめること。 ・並行読書をしてきた4つの作品から1作品選んで登場人物カードを作っていくこと。	・豆太の人柄についての聞き合いで考えが広がったことを価値付ける。 ・登場人物カードを作ることに意欲を持たせる。